

展示品の 見どころ

楓蘇芳染 螺鈿槽琵琶

正倉院南倉
長97.0 捍撥長40.5 捍撥幅16.5
奈良時代(8世紀)

楓蘇芳染螺鈿槽琵琶は、背面の主な部分に蘇芳染めたカエデ材を用い、螺鈿や琥珀を嵌め込んで唐花文、飛鳥文などを表した豪華な品で、正倉院宝庫の南倉に伝来しました。

螺鈿には線彫りが施され、また背面の唐花文の花心には、金箔・緑青・丹で伏彩色した玳瑁が嵌め込まれており、すみずみまで大



捍撥部分

変さびやかな装飾が施されています。槽の遠山の端に「東大寺」の刻銘があり、本琵琶が東大寺ゆかりの品であることがわかります。

琵琶の撥の当たる捍撥と呼ばれる部分には、白象に乗った胡人や唐子が音楽を奏でる「騎象胡楽図」と呼ばれる絵が描かれています。山岳を背景に夕陽のなかを進む一行は、小画面ながら表情の描き分けがなされ、また装身具や奏楽の運指に至るまで精緻に描かれており、その丁寧な描写には驚かされます。一方、背景に目を向けると、山水表現には遠近法が用いられ、河流に沿って奥まってゆく渓谷は、画面には描かれていない西の彼方を

想像させます。また夕陽の彼方から水辺に降り立つ鳥の群れも近くなるほど大きく描かれ、飛鳥とともに夕暮れの赤い光が迫って来るような印象を憶えます。捍撥という狭小な画面に、前景の岩壁から中景の渓谷を経て遠山に至る広大な景観を描く様子は、まさに「咫尺千里」「咫尺万里」というべきもので、当時の山水画の到達した水準の高さを物語っています。

かつてはその完成した絵画様式から中国・唐で制作された可能性が指摘されましたが、近年使用された絵の具の特徴から日本で描かれた可能性が提示されています。また、正倉院宝庫の漆芸品にみられる螺鈿には、一般に夜光貝が用いられていますが、本琵琶は唯一アワビが用いられており、このことから本琵琶が日本で制作されたことがうかがわれます。

その一方で、長梨形の胴と曲がった頸をもつ四絃四柱の琵琶というかたちは、ペルシャに起源をもつとされ、「象」という捍撥絵のモチーフも加わって、遙かシルクロードの彼方を想い起こさせます。

本琵琶では、楽器の中に奏楽図を描くという機知に富んだ構成がみられますが、こうした工夫は今回出陳の仮斑竹笙の壺部分に、笙を吹く人物が銀平脱で表されているように、正倉院の楽器類にままみられるものであり、いにしえの人々の洒落た感覚を思わずにはられません。

今回正倉院展にて12年ぶりの出陳となるこの名宝を、是非間近で御堪能下さい。(当館研究員 清水 健)



開館予定(10月~12月)

■開館時間 9時30分~17時(11月12日までの毎週金曜日は19時まで)
ただし、正倉院展会期中は9時~18時(金曜日は19時まで)
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日(正倉院展会期中は無休)
10月11日(月・祝)は開館、10月12日(火)は休館
12月27日(月)~1月1日(土)は年末・年始休館日

■観覧料金 正倉院展

	大人	大学・高校生	中学・小学生
一般	1,000円	700円	400円
団体・前売	900円	600円	300円

平常展・特別陳列

	大人	大学・高校生
一般	420円	130円
団体	210円	70円

*団体は責任者が引率する20名以上。



[交通案内] 近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。